

原爆の子 広島の子供たちのうたったえ

期間 平成27年1月1日(木)～12月28日(月)

時間 12月～2月 8:30～17:00 / 3月～11月 8:30～18:00 8月～19:00(5日、6日～20:00)

会場 国立広島原爆死没者追悼平和祈念館 情報展示コーナー(地下1階) **入場無料**

昭和二十年八月六日

一発の原子爆弾により

広島の子供たちは一瞬にして破壊され

多くの尊い生命が

無差別に奪われました

被爆から六年

広島の子供たちが復興へと歩む中

子供たちが書いた被爆体験記集

「原爆の子 広島の子供たちのうたったえ」が

出版されました

帰らない父母を待ちながら

「お父ちゃん、お母ちゃん」と泣いた日々

二度と会えなくなったやさしい兄や姉

かわいい弟や妹たちの思い出

今回の企画展では

今も読み続けられている被爆体験記集を紹介し

子供たちが体験した戦争や原爆の悲惨さ

平和への思いを伝えます

被爆者の「こころ」と「ことば」に

ふれてください

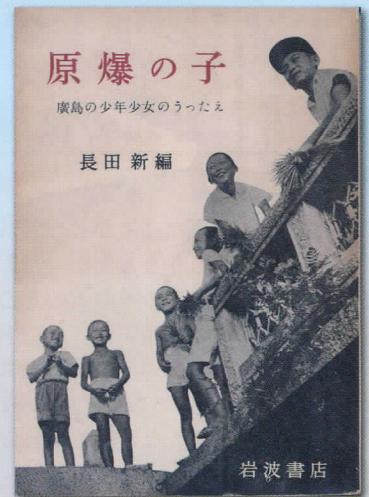
平成26年に引き続き、平成27年には、
被爆時小学校4年生以上の子どもたちが
執筆した被爆体験記38編を紹介します。



長田新氏 教育学者『原爆の子』編者
広島文理科大学教授在任中に被爆
昭和24年(1949年)から広島大学教
授 昭和36年(1961年)没



昭和27年(1952年)2月、長田新氏から、子どもたち
(執筆者)に1冊ずつ、『原爆の子』が手渡された。広島
大学文学部22号教室にて



『原爆の子』初版本 昭和26年(1951年)
岩波書店

世羅恵さんの被爆体験記より

(被爆時：中学校2年生 執筆時：高等学校3年生)

姉はあるいは本店に帰っているかも知れないと思って、私たちは中に入った。入ったとたん、私は目をおおってたじたと退いた。これがこの世の地獄というのであろうか。土間にも、カウンターの上にも、焼けただれた人々がうつろな目を開けて転がっている。父はそんな人々の間を、「幸代はおらんか」「世羅幸代はおらんか」と大きな声で呼びながら歩いていた。しかし姉のすがたは、どこにも見えなかった。そこを出て十日市あたりまで来ると、真黒焦げになった死体が沢山ころがっていた。倒れた馬の傍には兵隊さん、母親の近くには赤ちゃんが死んでいた。私たちはその死体を一人一人見て歩いた。だが姉らしい姿は見当らなかった。

出典「原爆の子 広島市の少年少女のうったえ」長田新編 岩波書店



池亀春男氏 作 / 広島平和記念資料館所蔵

升岡直子さんの被爆体験記より

(被爆時：中学校2年生 執筆時：女子短期大学学生)



松原美代子氏 作 / 広島平和記念資料館所蔵

不意に気がつくと、あたりは真暗で、私は地上に押し倒されていた。もうもうと立ちこめる埃に息もできない有様である。(中略) 起しようとする、足の方で誰か人の身体に触る感じがした。「お母ちゃん、お母ちゃん、助けて」と泣き叫ぶ声。私も泣いていた。自分はこのまま死んで行くのかも知れない。灰の中に身を焼いてしまうのかしら。無意識に「死にたくない」とあせる心。どっちに逃げてよいか見当がつかない。その間に目の前が少し明るくなった。友の姿を見て驚いた。血まみれになっている人、火傷して皮膚が真赤になっている人。普通ならすぐに目をそらせたくくなるような姿である。私の黒く焼けただれた手からは、油が汗のように流れている。

出典「原爆の子 広島市の少年少女のうったえ」長田新編 岩波書店

武内健二さんの被爆体験記より

(被爆時：小学校6年生 執筆時：高等学校3年生)

父はすぐ姉を大芝公園に逃がし、近所のおじさんたち四、五人をよびあつめ、丸太をさしこんで柱を動かそうとしたが、微動だもしない。そのうち火勢はどんどんひろがってきて目前にせまり、火の粉が父のところまでふってきて、いつの間にか父一人になってしまった。その時母は、すき間から手を出して、「わたしはもう助かりません。もう、だめ。だからあなたは、どうしても逃げてちょうだい」と悲痛な声でいった。その時父は、「何をお前はいうのか。お前を捨てて逃げられるか。お前が救われないなら、おれもここでお前と一緒に死ぬ」といって、柱を押し上げるべく最後の努力をしていた。

出典「原爆の子 広島市の少年少女のうったえ」長田新編 岩波書店



宮地臣子氏 作 / 広島平和記念資料館所蔵

開館時間

12月～2月 8:30～17:00
3月～11月 8:30～18:00(8月～19:00 5日・6日～20:00)

休館日

年末年始(平成27年は1月1日から開館します)

入館料

無料

交通案内

JR広島駅(南口)から約20分

- バス/広島バス吉島方面行で「本通り」または「平和記念公園」下車
- 市内電車/紙屋町経由広島港(宇品)行で「本通」下車
宮島口・西広島・江波行で「原爆ドーム前」下車

駐車場はありません



お問い合わせ先

国立広島原爆死没者追悼平和祈念館

〒730-0811 広島市中区中島町1番6号 TEL 082-543-6271 FAX 082-543-6273
ホームページ <http://www.hiro-tsuitokinenkan.go.jp/>

当館では、被爆体験記と原爆死没者のお名前・遺影を収集し、公開しています。企画展では、被爆体験記を中心に、当時の写真、関連する資料などを展示し、特定のテーマから被爆の実相に迫ります。被爆体験記や原爆死没者のお名前・遺影をお寄せください。皆さまのご協力をお願いいたします。